

平成29年度第2回いの町総合教育会議会議録

1. 日 時 平成30年2月26日(木) 開 会 午後1時00分

2. 場 所 いの町役場 401会議室

3. 出席者

町長 池田 牧子、副町長 久松 隆雄、総務課長 筒井 誠人
教育委員会

教育長 藤岡 孝雄

教育委員 日向 國雄、山中 ゆかり、渡邊 勝喜
岡田 正博

総務課長補佐 金子 剛

事務局 教育次長 山 崎 泰 代

吾北・本川教育事務所長 川 村 孝 子

5. 議 事

1. 菊池学園事業について
2. 保育事業について
3. 子ども子育て支援事業計画内容の変更について
4. スケートボード場整備に係る要望書について
5. 吾北分校の存続について

会議

金子： それでは定刻になりましたので、平成 29 年度第 2 回いの町総合教育会議の方を始めさせていただきます。

それでは、会議に当たりまして町長のほうから一言ごあいさつ申し上げます。

町長： 皆さん、こんにちは。

日ごろは、教育行政に対しましてご尽力を賜り、また、ご理解ご協力を賜りまして本当にありがとうございます。本日は皆様ご多用の中、総合教育会議にご出席くださいます誠ありがとうございます。大変厳しい寒さではございましたが、日毎に春がやっとそこに感じられるようになってまいりました。本日は菊池学園事業・保育事業等を議題として出させていただきますので、どうか忌憚のないご審議ご意見をよろしく願い申し上げますごあいさつとさせていただきます。

金子： それでは、早速に議事に入らせていただきたいと思います。まず議題 1 の菊池学園事業について、事務局ご説明をお願いします。

乾： A4 の一枚の資料をお願いします。先生と先生、子どもと子ども、こどもと先生が安心して過ごせる学校づくりを目指して行っております。具体的な取り組みはこちらに書いています。来年度については学力向上も目指して取り組んでいきます。自分らしさが発揮できる学級づくりにより、少人数による話し合いのある授業が成立し、どんな意見も受け入れてくれる安心感のある学級となり、先生の話も聞けるということになり、子どもたちが主体的で対話的な学びにつながります。そして豊かな対話を通して学び続ける子どもたちを育むということを目指します。ポイント 1 にありますが、学び合うための動きのある対話・話し合いにより、隣同士ではなく学級全体で動きのある学び合いをする、そして挙手・指名・発表といったスタイルから脱却した授業づくりを目指します。その手法として学級ディベートというのに取り組めます。これはチームで行うことで、チーム内で話し合い、相手が何を言い何を伝えたいのか、そういう相手のことを思いやることが大切で学級ディベートを取り入れます。そういう場面ですが、菊池先生の映画「挑む」の中で学級ディベートの場面がありました。ある男の子がこうだという意見を言いました。すると他の子どもたちが、それは、こうこういう理由で違うよと言いました。そして、いや僕は違うと思う等とお互いに反し合って答えを見つ

けあう。そういう話を深めていく中で、あっ、そうか、君の説明で分かった。という結果を見つける。そういった作業を通して仲間との信頼関係を高める。対話を通して相手を負かすというのではなくて、対話を通して根拠をもって丁寧に伝え合うということを経験するものです。

岡田 : 平成 28 年度・29 年度と取り組んできたのですが、小学校での様子とか進捗はどうか。

乾 : 大きく 3 つあります。価値語、成長ノート、ほめ言葉のシャワーです。価値語はどの学校も取り組んでいます。成長ノートは小学校と中学校によって違いがあります。中学校は難しいところがありますが、部活動等で学校によっては取り組んでくださっています。言葉で伝える場合と附せん等を書いて伝えるような取組例も学校によってあります。相手の良さを認めていくといった取組みです。さらにいうと相手の良さを見つけていくということは、幼稚園、保育園でも年長さんが積極的に取り組んでくださっており、昨年寺子屋で学んだ先生方が、アレンジして取り組んでくださったので、小学校 1 年生になった時、ほぼ全体の子どもさんが戸惑うことなくほめ言葉のシャワーができるようになっていたとのことでした。

岡田 : 個々の主体的で対話的な学びと書かれていますが、ディベート・ディスカッション・体験学習と大きく分けてこの 3 つにほぼ別れるんじゃないかと自分の中では思っているんですが、そういう風な学びの実現というのは、いろいろ反映させていかなければならないと思います。また、少人数の話し合いのある授業というのは、道徳の中で以前からやっていますね。いわゆる話を交わすわけですからこれは道徳の基本になるわけですね。ですからこういうことをほかの教科にもとりいれてやろうということですから、ディベートやディスカッションが必要なのかなという風に捉えています。小学校では割合やっているけれども、中学校への手立てというのを考えていることがあれば教えてください。

乾 : 中学校への手立てですが、昨年度までは学校の都合に合わせて計画していましたが、来年度はまず、こちらから日程を提示して調整していきます。それと、中学校の部分になると、小学校のように一人の先生が全部学級を受け持つということではないので難しいということもあります。いの町の場合は、伊野中学校以外は一小一中ですので保幼小中連携の部分では取り組んでいますので、そういった中でつないでいただこうと思っています。そして、対話的というのは相手、主体的というのは私自身と捉えて、先生が一つの答えを出すのではなくて授業の中で複数の考え方を発見していく。これからの高校入試の形も変わっていくと思

うので、それに対応していくために少人数の話し合いが必要となります。県も授業改善に取り組まなければならないとっており先生方は一生懸命考えていますが、教科書があるのでそれを終わらせなくてはならないということで、教科書の内容をこなすことで精いっぱい。その部分での先生方の葛藤もあると思うので、菊池先生のご助言の中で少し参考にさせていただきませんか、一緒に考えていきたいと思っています。

教育長：先ほど乾の方からも話がありましたが、県の授業ベーシックというのがありまして、教本があります。これは当然、授業改善が目的でありまして、子どもたちにしっかりと学力をつけさせるためのいろんなテクニックがヒントとして載せられています。30年度は子どもたちにまなんでいただくために、先生方に、まずはこの二つのポイントを先生方が取り組むことによって学び続ける子どもたちになってほしいと、ポイントを絞り込んだものです。

日向委員：幼児教育の課題の中にも、主体的で深い学びが必要となっています。子どもが主体的に遊びこんでいく、その中で話し合いをしながら進めていく。これが小学校教育に上がっていくものですが、私たちは子どもたちが自らが遊びを探すという、子どもたちが発想していくということを行っています。幼児教育も当然来年度から、主体的・対話的な学びというのが入ってきますので、つなげていくために何をするのかということを考えていけたらなあと思っています。

山中委員：学級ディベートというのは各学校にやり方は任せるの。授業の時間もあるのでどのように取り入れていくのか。

乾：話し合いのある授業は色んな捉え方があります。答えがいくつもあるような教科で、考えを深めていく。年度当初に菊池先生に学校で示していただいて、その後どのように取り入れているのかを見せていただき協議をするということを繰り返していきます。もちろん日数も限られ、いの町には12校ありますので、限られた日数の中で調整しながらやっていきたいと思っています。

渡辺委員：菊池の取り組みを今後進めていくうえで2点考えていかなければならないことがあると思います。主体的で対話的な学びを進めていく考え方は、ある意味、日本の教育の先端を行っているんじゃないかと思います。小中学校はもちろん、幼稚園保育園でも実践が進められています。さらに高等学校の指導要領・大学入試にしても対話的で、その学びを重視するということが求められている、そういう意味ではいの町は自信を持って進めなくてはならない。この実践がどう成果が出ているのかということ現場の先生方がこの手法を学び、取り入れようとするか、ここ

が問題だと思えます。始まって早や2年経ったけれども、現場の感じ方に温度差がある。これは管理職も含めてです。なぜなんだろうと思い、先日、組合の先生とお話した機会に聞いてみましたが否定はしませんでした。評価をしていました。ただ。そうであっても、現場がこなしていくためには環境が大事ですね。先生方は忙しすぎるんです。あまりの雑務に追われる中で菊池学園の話がある、寺子屋もそうですけれど、そういう面で何をどうすればいいのか、先生方がこの菊池構想を進めていくための対策、これを考えていくことが1点目です。2つ目ですけれど、これは実感ですけれど、いの町はこの素晴らしい実践をもっと大々的に発信してほしい。子育ての町の町・教育の町の町と、大きな垂れ幕を庁舎の前に垂らす、そういった意気込みでこの取り組みを進めていただきたい。例で言いますと、移住担当の方と話をしても、東京でいの町の話をするとき、いの町ってこんな町ですよ、こんな教育の町ですよと担当の方が言えるのといえないのでは大きな違いがあると私は思っています。特に少人数の中山間の地域でもこんなですよと自信を持って言えているとは思えない。菊池学園構想に自信を持って外向けの発信、これが2点目です。内向けのポイント、外向けのポイント、これを持って進めていただきたい。以上です。

乾 : 菊池学園担当として2年間やってきて、何かをスクラップしないとできないという先生がいます。何かに追われている。先生方はまじめな方ばかりなので何か成果を出さなくてはならないという焦りがありますが、教育という人を育てる中で、人の成長というのは一足飛びにはいかないので、その辺りの環境を整えるという事を根本的に整備しなければならない。ご指摘の寺子屋にしても月に2、3回しかないなので、来年度はなるべく参加しやすいように学校に出向き、研修のような形で学べる環境にしたい。宣伝に対しては、パンフレットを作成しました。庁内、窓口、移住の担当の方にもお願いして、いの町を目に見てほしいと思っています。

教育長 : 2年間ずっと各学校通信で家庭にもお知らせしてきましたが、師範授業をする時に、見てもらいたいんですよ。通信だけでなく、学校と家庭がつながる連絡帳等、最短のものを活用して情報を提供して、児童生徒と先生のつながりを見てもらいたい。

町長 : 渡辺委員から言頂いたご意見で、1点目にPRの事です。先日も庁議で話をしましたが、仁淀川筋で言うと日高が有名になっている、越知町もスノーピークで活性化しようと町おこしや交流人口の拡大に取り組んでいる。まだまだいの町は遅れている。管理職向けに言ったのは、アイ

ディアは否定することなく出し合っていこうよと、菊池先生が取り組んでおられる、否定しない授業、職員もして行かなければならない。ブレーストーミングやディベートによるコミュニケーションの能力を高めることは私たちにも求められるもの。そういうことを煮ながら取り組んで行かなければならないなという事を話しました。もう1点は、今度移住フェアに行きませんかという話があり当然行きますと。渡辺委員さんが言われた通り職員に向けても菊池の取り組みを今一度浸透させなければならぬなと思いました。県の教育委員さんも映画を見てくださって、感動しましたと言ってくださったので、私も自信を持ってアピールできることだと思っています。力強い言葉を頂いて自信を持って移住フェアでもPRしたいですアイ、職員にも意識を持ってもらいたいと思っています。以上です。

金子 : 他にご質問はございませんでしょうか。それでは2点目保育事業について、事務局からご説明をお願いします。

曾我部 : 認定こども園化のご説明をさせていただきます。枝川保育園・幼稚園、吾北保育園、幼稚園の認定こども園への移行につきましては、昨年保護者の方に説明会を開催しました。説明会は枝川は昨年10月に、吾北については、昨年10月11月に行いました。枝川では、園を通じて意思確認をさせていただきました。また、吾北では保護者会で採決を取っていただき了承を得ました。平成30年度を準備期間としまして、平成31年度から認定こども園に移行するように計画をしています。以上です。

金子 : 事務局の説明は以上です。何か質問はございませんでしょうか。意見交換をお願いします。よろしくをお願いします。

土居 : 保育・幼稚の現状と何が変わるのかご質問や細かいところで制服はどうなるか、反対意見はなかったですが、移行後の生活がどうなるのか、後、利用料の質問がありました。

岡田 : 31年度から移行ですね。認定こども園のメリット。移行まえ、後の。保護社から質問はなかったですか。

曾我部 : メリット、デメリットの説明はさせていただきました。メリットとしましては、幼稚園のえんじすうが減っていますので、就学前の活動で適切な人数確保が難しくなっている。一つになることで適切な規模が保たれるという事があります。また、保護者の方の就労状況によって、保育園は本来入園に理由が必要です。お仕事を退職されると退園になるんですが、認定こども園になることによって、その状況が変わっても同じ施設に通う事が出来るというのが最大のメリット。デメリットは、枝川の幼稚園はクラス的人数が少ない、一つになることでクラスが大きくなり、環境

の変化を伴うので、保育士が配慮すべき点であると思います。

町長 : 認定こども園になると一つメニューを入れますよね。それを。

曾我部 : 認定こども園化になりましたら、子育て支援のサービスを始めなければならないというのが法律で定められています。週回以上の基準ですが、エンテイ開放や育児相談、一時預かり等のサービスを始めることがメリットの一つです。保護者のご意見をいただきながら、そのサービスを検討していきたいと思います。

金子 : 他にご意見はございませんでしょうか。それでは保育事業につきましては終わらせていただきます。

曾我部 : 一点共有していただきたい点があります。毎年実施しております園評価のご意見についてご報告をさせていただきたいと思います。園に感謝している、満足しているというご意見ありますが、一番多くあったご意見が、土曜日の一日保育です。現在は12時半までとなっています。土曜日は平日の1割から2割の方が通園しています。保育ニーズが高まっていますので、検討しなければならない課題になっていますが、保育士の負担や体制も含めてご競技をいただきたいと思います。

金子 : この点につきまして、ご質問がございましたらお願いします。

岡田 : 協議というか、どういう風にしたいのか聞かせていただきたい。

次長 : 今回は報告の段階で原案という形でお示しはできていません。ただ、こういうご意見を受けて、町としてどちらの方向に進めていくべきか、できればこういったニーズがあるものはクリアしていくように検討はしていきたいところですが、委員や町長の方から始めるに当たって、気を付けるべきところ、不安やご提案があれば聞かせていただきたいと考えています。

町長 : 土曜日は1割から2割の利用とありましたが、これも午前中だから、この割合じゃないかなと思うところもあります。朝連れてきて、また迎えに行っても朝からどこかに預けているというのものもあるんじゃないかなとは思いましたが、それに関してはきちんとデータがあって、どれだけのニーズがあるのかという事を調べたうえでするかせんか、しないという選択はないと思うんですが、それによって保育士の数も必要になるので財政的な負担も当然必要になってくるので、そこも含めて検討が必要。ちゃんとデータを集めてもらいたい。普段は土曜日は図ける必要がないがたまたま、預かってほしい日もあると思うので、柔軟な対応を考えてほしいなと思っています。

教育長 : ニーズ調査を家庭に仕掛けるとあったらいいなの回答になる。仕掛けるのと止めますと言えない。一時保育を併用する。やるやったら全園に仕掛

けないと、この園だけというわけにはいかないと思います。

日向 : 土曜保育は要望が多いです。あいのは3時までですけれども、公立の保育園幼稚園で3時までとなると中途半端。土曜日も預かりますよというのは嬉しいけれども、結果的には、園長の要望が出る。保育士やパートの影響が出ますので、そういう事も精査してから考えて行ったらいいかなと思います。

次長 : ありがとうございます。保育士の確保といったところが大きなネックになってくると思いますけれども、できる方法とかも考えていかなければなりません。情報を集めたいと思います。ありがとうございます。

金子 : それでは3点目の議題です。子ども子育て支援事業計画の変更内容についてです。それでは事務局よろしくお願いします。

土居 : 資料の方は次第をめぐっていただいて3ページからです。いの町子ども子育て支援計画ですが、これは子ども子育て支援法に基づく子育て支援事業計画となっています。H27～31の5カ年となっています。29年度は見直しを行う中間年度となっています。本計画の基本理念は、豊かな自然に包まれて、やっぱり～みんなあいのが好き 親子そろってぷっくりハートのまちづくり～としまして、各種施策に取り組んでいます。地域子育て支援事業の提供体制及び実施の時期の部分で、策定時点では実施の予定がなかった新たな事業に係るものです。まず32ページの事業の量の見込みです。変更になる部分には下線を引いています。ファミサポと利用者支援事業で素。ファミリーサポート支援事業は、30年度の秋に実施開始の見込みで取り組んでいます。量の見込みは他の市町村を参考にしております。利用者支援事業は30年度にすこやかセンターに1か所、31年度にはぐりぐらひろばに開設して2か所開設の予定です。ファミサポ事業内容につきましては地域で子育てを手伝ってほしい会員と助けてあげたい会員が登録をして手伝う事業で全国でも認知度も高まってきている事業です。43ページの利用者支援事業は、子育て支援の保護者の身近な場所で、教育・保育施設の子育て支援事業の情報提供・必要とする相談活動を行う、関係機関との連絡調整を行う事業です。H30はすこやかセンターにおいて母子保健型、H31はぐりぐらひろばにおいて基本型を実施することにより、子育て支援の質の向上を図ります。利用者支援事業は全部で特定型という3つの累計から2つをいの町は実施することとなります。30年度から実施する母子保健型は名称が、子育て世代包括支援センターでコーディネーター一人が当たるという事です。

金子 : 事務局からの説明は終わりました。ご質問がありましたらお願いします。

- 渡辺 : 質問です。この見方が分からないのですが、40 ページの量の見込みに対確保の数はどう見たらいいですか。
- 土居 : 確保は年間に提供できる寮です。実績が無いので、月2、3件のくらいがあれば紹介ができるという見込みです。
- 町長 : 確保の内容から見込みを引いた数をどう見たらよいか。
- 土居 : ニーズ量より提供の確保が大きい。余裕があるという事です。南国市の件数が初めて2つくらいしかなかったと聞いております。
- 次長 : 補足よろしいですか。子ども子育て支援事業については教育委員会と保健福祉課にまたがっています。先ほどのご説明の中のファミサポは、ほけん福祉課の事業となります。そして利用者支援事業の、30年度に始まる包括支援センターは、ほけん福祉課で、31年度に始まるぐりぐらひろばの方は、教育委員会になります。
- 教育長 : この計画を立てる段階でニーズ調査を行っていると思いますが、このファミサポ、利用者支援事業のニーズ量はどれくらいでしたかね。
- 土居 : 計画書で見ると、ファミサポは数字がありません。利用者支援事業の方は窓口の開設なので、実施する予定なしというところでの結論となっていました。ファミサポは小学生までの対象としているのである程度のニーズはあったと思います。
- 次長 : 保護者様にニーズ調査を行ったときの利用希望のデータはありますが、この時の対象は、ファミサポ希望の方は8%でした。利用者しえんじぎょうは無しでした。
- 町長 : 少し、ファミサポのことですが、今後探っているのが病児保育です。仁淀病院でやりたいと思っていたのですが、医師の確保が難しいので、ファミサポの中で病後児の預かりが出来ないかなという事を探っています。H30年度に始める中では入っていませんが、そういう事ができれば預けたい方も出てくるのではないかなと思います。
- 日向 : ファミサポの中でするとなると、訪問型になりますよね。訪問型もないことはないですよ。中央部にありますか。
- 町長 : 細木病院や佐川町でもあります。訪問型ではなく、どこかに預かってもらう事になると思います。訪問は嫌、どこかで預かるのであればいいという方もあるようです。そういうところも探っています。
- 土居 : 県が作成しているリーフレットの中で、預かる場所は、原則は援助をする方の家庭、また、公共施設で預かるのはファミサポではないという事になっています。
- 町長 : 国と県は違って、国は人数的にもハードルが高く、県が敷居を低くしているという事があります。

- 金子 : 他にご意見ご質問ありませんでしょうか。4 点目の議題です。事務局ご説明をお願いします。
- 次長 : 一枚めくっていただいたところにあります。要望書の様式、宛名がない要望書ですが、2300 件の署名によりスケートボード場の建設について愛好家の皆様がおいでてました。子どもたちのオリンピックの協議にもなる、子どもたちの遊ぶ場所、いの町の多くの方に来ていただく、等という内容のものです。高知新聞の記事にも掲載されていましたが、町長の方は今後可能性を探るとお答えしているところです。ちょうど本日の総合教育会議がありましたのでご報告させていただき、またこのことについてご意見等がありましたらいただきたいと思い協議第とさせていただきました。先日管理職の方にも提案の募集をしています。教育のみならず、観光等関係のある複数の課で協議もしていきたいと考えています。
- 金子 : それでは、このことについて何かありましたらお願いします。
- 岡田 : 署名が 2300、かなり数が多いですが町外の方も多いですか。
- 町長 : かなり町外が多いです。高知県内の方は多いですが、沖縄の方もありました。このスケートボードの整備に関して、市営球場の一角に 3 人くらいができる練習場があるが、それではなかなかできないとのこと。室田や大方にもあるんです。そこに行くには遠いというところ r p があって、高速を使って香川や愛媛に行っているそうです。四万十市にも署名をして四万十市が建設しているようです。東京オリンピックからはいるという事で高まりがあるのではないかという事です。この愛好家の皆さんは、例えばムササビのあたりに作ると温泉も入り、親子で楽しめるのではないかとか、キャンプ場の近くに作れば交流人口も拡大につながるのではないかという事でした。補助金があるのではないか、そういうものがあるのであれば可能性は広がるのかなと思っています。
- 日向 : 施設の広さとか、町内に何か所かとかですか。
- 次長 : 要望に来られた方は中央公園の広さとかおっしゃっていましたが、建築費は数千万単位とお聞きしています。東京などの施設になると億単位だそうです。市営球場のような小規模ではなくもう少し大きいものが欲しいようです。
- 町長 : 練習ができるような施設。もう一つはプールの中でお椀を置いたような施設。屋根は要るのかときいたら屋根は要らないということでした。本当は欲しいようだそうです。夜間の照明も欲しいという事でした。
- 教育長 : この前の庁議で提案をというお願いをしましたが、委員さんからも気が付いた情報等ありましたらお願いしたいです。
- 山中 : 本川に欲しいという気持ちはありますが、利用者のことを考えたら。

教育長：西条側からだ。

町長：子どもが道路で練習していて危ないので四万十市は要望があって整備するようです。ところがいの町ではそのような姿を見ないんですね。署名にもいの町の方があんまりなかった。

教育長：本川小のプールは。中山間の本川から呼び込もうという発想があれば。

山中：それを広げようと思えば色々な事に広がっていく。

町長：グリーンパークもあるかなと思ったけれど夜間照明があるかなと思って。しずかなところなので響くかな。市営は自由使用みたいです。9時には閉まるようですが。

山中：実際そんな施設があれば、留学生が自由に使える環境だったり、家族の移住とかにつながるとか、発想としてはいいかなとは思いますがけれども。膨らませたら思いますがけれども面白いかな。

町長：本川・吾北で何かできたらいいですけどね。

教育長：ぜひ何か。

町長：可能性を探るところで。要望された方も目的維持への計画、集客の計画、管理、様々な事を検討しなければならない。どこまで可能性があるかを探る。場所や補助金を探ることも必要。建設費もざっくりなので。

教育長：委員会として視察に行くとか。

町長：資料が整っていないので研究していった。

金子：他にありませんか。それでは次の議題。吾北分校について事務局お願いします。

川村：分校については2年続いて入学者が20人をしたまわった場合は募集を打ち切るということになっていりましたが、今回、H31～H35の高校再編計画を策定するにあたり、地域の声を反映させていくということで去る12月4日に町長が、県の教育委員会の思いを述べていただきました。県は各地域の意見を集約して9月にはパブコメ案を提示。10月に議会提案のうえ、実施。12月には策定という計画です。プレゼンの資料はお手元のとおりです。

渡辺：吾北分校は危機的弾劾絶壁にあると思います。それぞれの分野で皆さんが頑張ってくれています。絶対数が少ないので吾北外から来ていただく努力が必要です。進学や就職についても非常に良い成果が出ています。一昨年、昨年、今年も高知大に合格しています。少人数であるがゆえに個々の対応ができているのだと思います。この議論をするたびに思いますが、絶対的に厳しい。しかし希望の芽がないわけではない。IターンUターンの方の子どもも出来ているので、総合的に取組んでほしい。

- 岡田 : 8名のうち吾北中が2名、後はどうなっていますか。追手前というブランド名がある。多町からの学校からも支持されている学校であるべき。池川からは佐川よりは吾北へとと言われる親御さんもいた。進学の実活動も必要。もう少し積極的に訴える。
- 町長 : DVDを作るのも営業活動のひとつにしていきたい。遠隔授業もしているので、そういうところも出していくべき。吾北分校を出ると、英語ペラペラに喋れるなどという事ができないか。休校利用やみどり寮を活用するなどといったこともかんがえていかなければならない。援助もたくさんしている。市内に通うとか下宿となると補助はない。本当にしんどい家庭にとって、分校がなくなると命の学校がなくなることになる。守っていかなければならない。
- 金子 : 他にご意見はございませんでしょうか。その他で何かありますでしょうか。
- 次長 : 教育委員会の点検・評価書をお配りしています。これは地法行法で行わなければならないとされているものです。各担当が自己点検をして、外部評価委員に外部評価をしていただいています。委員は2名です。外部評価についてはお二人のいずれか低い方を入れさせていただいております。
- 金子 : このことについてご質問はございませんでしょうか。それでは特にないようです。
- 岡田 : 一つ。先日のノーベル賞を受けた方の山本浩章さん、立役者になっていたようです。何か機会があったらこういう方がいるという事を。
- 町長 : 山本先生が重力波を発見された時に山本電器の取り壊しの時に帰って来られていてお会いしました。後で、その関りを持たれていたことが分かりましたが、またお母様にお会いしてお祝いをお伝えしたいと考えています。岡田委員が仰っていたこともお伝えしたいと思います。
- 次長 : 実は、来年度、図書館が20周年を迎えるのでその際に、山本先生のご親族がいのにいらっしゃり、先生はカリフォルニア大学においでることですので連絡をしていただき、お里帰りの時に何かお話をさせていただいたらいいよねという話になっていますが、まだこれからアクションを起こすところです。
- 町長 : あのノーベル賞については、高知県出身者が二人関わっているようです。もう一人が高校の同級生で東大の教授ですのでそういった関りもしています。
- 金子 : そしたら他になれば平成29年度第2回総合教育会議を終了させていただきます。皆様どうもありがとうございました。

